

平成30年度第2回白井市地域福祉計画策定等委員会会議録

- 1 開催日時 平成31年3月4日（月）午後2時から3時30分まで
- 2 開催場所 白井市保健福祉センター2階 研修室2
- 3 出席者 高尾委員長、阿部委員、石田委員、久保委員、黒添委員、田代委員、鶴岡委員、所委員、中島委員、松本委員、美濃口委員、山口委員
- 4 欠席者 白石委員、森谷委員
- 5 事務局 豊田社会福祉課長、村田主査補
- 6 傍聴者 1名
- 7 資料 ①「地域福祉に関する施策」にかかる主な取り組み
②白井市第2次地域福祉計画の取組にかかる進行管理シート（案）

8 議 事

I 開会

○事務局

会議に先立ちまして、委員に変更がありましたので、ご紹介させていただきます。前任の竹内委員に代わりまして、新たに黒添委員を委嘱させていただきましたので、お知らせいたします。

本日の出席委員は12名です。委員の半数以上が出席しておりますので、ただいまから平成30年度第2回地域福祉計画策定等委員会を開催させていただきます。

議事の進行につきましては、委員長が行うこととされていますので、よろしくお願いたします。

II 議題

○委員長

本日はご多忙のところ、地域福祉計画策定等委員会に出席いただきありがとうございます。本日の会議では、前回ご審議いただいた「地域福祉に関する施策」の主な取り組みの進行管理についてご審議いただきます。各委員の忌憚のないご意見をお願いします。

次第に従いまして、まず議題1 「白井市第2次地域福祉計画『地域福祉に関する施策』にかかる取組の進行管理について」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

○事務局

（事務局より資料①及び②に基づき説明。）

○委員長

ここまでの説明に対して何か質問や意見はありますか。

○委員

進捗状況の3段階ですが、「順調に進んだ」、「概ね進んだ」、「一部遅れがある、又は未実施」はそれぞれ何%くらいの達成度になるのでしょうか。

○事務局

最終的には担当課での判断となるのですが、事務局で想定しておりますのが、「順調に進んだ」が80～100%、「概ね進んだ」60～79%、「一部遅れがある、又は未実施」が0～59%と考えております。

○委員

この尺度を作るときには、確実に順調にできたというのが100%で、未実施が0%だとすると、3段階に分けるだけでは課題が見えてこないような気がします。何を課題とするのかということがきちんと見えるような形の尺度にすると良いのかなと思いました。

○事務局

事業の内容によっては、何%と表せるものとそうでないものがあると思うのですが、取り組みの成果とか課題を総合的に判断して、担当課において3段階で評価してもらおうと考えております。評価した理由についても事務局の方でヒアリング等を行ったうえで委員会に報告させていただければと思っております。

○委員長

いや、それはそれでいいと思うのですけれども、数字で表されるものに対する物差しはきちっとしておいたほうがいいのではないですかね。

○事務局

わかりました。

○委員

ヒアリングの中身とかだと、課題がやっぱり曖昧になってしまうので、例えば計れるものであれば、未実施か実施したのか、また、未実施から実施までの間は、どの程度で、何が課題なのかというのが見えるようにしたほうがいいのではないのでしょうか。

○委員長

それはいいですかね。尺度を未実施はゼロ、少し進んだのであれば、20とか30とか、そういうふうに分けていかないと、せつかく数値があるわけだから、評価をはっきりした

ほうがいいのではないかと、もうちょっと段階を細かくしたっていいと思います。

○事務局

段階は、もう少し細かくさせていただきます。

○委員

ご参考になればと思います。ありがとうございます。

○事務局

わかりました。

○委員長

ほかにご意見がありましたら、どうぞ、お願いします。

○委員

実績値と単位というのは何でしたっけ。

○事務局

実績値と単位につきましては、例えば2番の「周知方法の検討」につきましては、連絡調整会議の開催ということですので、30年度において何回会議を開催したかという数字を実績値に入れまして、単位につきましては、例えば、1番の保健福祉ガイドブックですと、発行部数になりますので、「部」という形で入れ、会議に関しましては「回」という形で入れるようになります。

○委員

わかりました。それで、先ほどおっしゃったような話と同じなのですが、表の中に、30年、31年、32年、それから取り組んだ成果、今後の課題や方針とありますけれども、これは、年度ごとにつくるのですよね。たまたまここは3年間が一緒にあるということになっていますけれども、課題やその成果や方針というのは書き切れないじゃないですか。例えば、30年度の横にちょっとやっても書き切れないし、30年度が順調に進んだとなったら、31年度をどこに書くのとあるので、表を一枚一枚年度ごとにつくるのですよね。

○事務局

そうです。

○委員

実際に評価する場合は、1番については、30年度の実績値、それから単位、それから評価に関する成果とか今後の方針を書くというふうなことですよね。

○事務局

そうです。

○委員

わかりました。他のところのそういう評価の関係で、どうも見にくいとか、ごちゃごちゃしたのがあったので、ここを整理してもらっておいたほうがいい。これはあくまでも、こういうふうな形ですよという意味で書かれていると、そういうことですな。

○事務局

そうです。

○委員

わかりました。

○委員長

よろしいですか。他にご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

まず、1ページ目ですと、取組項目に保健福祉ガイドブックの発行があって、担当課が社会福祉課、それから取組内容は記載のとおり。進捗状況は仮に実際に順調に進んだとして、そうすると、発行部数がかかなり多いのだという話になるわけでしょう。そこで実績値も入っていくわけですね。そうすると、一番右のところの問題で、市民にガイドブックを配ったけれども、それが理解されているかどうかということが課題なのだと。例えば100%、市民の方にこれを配布しても、市民の方は内容をよく理解していないようだ。内容自体が十分に理解されていないとわかりましたということが一番右に出てくる。そうすると、今度、周知の仕方をどうしたらいいのかという話になって展開されていくというふうになっていくのだと思いますが。

そういう形で、ずっと進行管理をしていくということですが、これでいいかどうかを検討していただきたいということですが、いかがでしょうか。何かほかに意見がありますか。

○委員

評価というのは、最終的にはこの委員会で評価するのですかね。市のほうで、実績とか

単位というのは市が書いてくれるのでしょけれども、それに対する評価、これで良いのか悪いのかというのは、この委員会の中で出すというか、判定するということですか。

○委員長

そういうことです。

○委員

そういうことですね。わかりました。

○委員長

課題はこうだという意見を申し上げるということになります。

○事務局

今、委員から意見あったのですけれども、地域福祉計画策定等委員会の意見欄に、委員会の意見としての順調に進んでいる、一部遅れがあるというような評価を入れていないのですが、こちらは入れた形のほうがよろしいでしょうか。

○委員長

それは入れたほうがいいのではないですか。

○事務局

それでは、進捗状況と同じような形で段階を設けまして、委員会のほうでも、順調に進んでいるのか、一部遅れがあるのか、未実施なのかというところで評価していただくという形で、新たに欄を追加させていただきます。

○委員

一緒にしてしまうと、ぐちゃぐちゃになっちゃうから、この課題と評価表を別にすればいいのだよね。そうしないと、今、事務局が言ったようなところは、評価のところつけようがないじゃない。もうちょっと広げてとிட்டって、大きな紙にできないわけでしょう。大体このA4ぐらいだから、そしたら、この最初のほうの取り組み内容とか、何かを外しておいて、評価表は評価表として別に作っておけばいいと思う。そこはやり方を考えたほうがいいと思いますね。そうすると意見も書けるのでしょし。

○委員長

よろしいですか。もう取組内容については決まっているわけですから、これについて評

価していくということになります。どうぞ、何かご意見がありましたらお願いしたいと思います。

じゃあ、いいですか。そうすると、進行管理シートは若干修正して、これで進めていくということで。先ほどの意見を取り入れて、評価の段階を少し変えるとか、あるいは意見と評価を入れるところを別々に作るとかというような形で修正していきたいと思います。

ほかに、もし意見があればお願いしたいと思います。

○委員

細かく見てみると、取り組み目標が「相談窓口の周知を徹底する」でまとめられておりますが、例えばガイドブックの発行のところを見ると、「配布やホームページの掲載、作成」ということで、周知するために何をするかということになっているのですね。だから、媒体を配ることが目的なのか、市民に周知していくことが目標なのか、そこにちょっと齟齬があるような気がするのですが。もっと言えば、全部見ると、そんなようなところがいくつもあるのだけれども、目標があって、取り組みがあって、項目があるという、この段階が、何をどうしたいのかという、主語がちょっとわかりにくいかなと。

○事務局

進行管理シートのそれぞれの取組内容に対して、実数の指標を出している形になるのですけれども、それだけを見ると、今、委員がおっしゃったように、それが発行できればいいのかという評価に思われてしまうのですけれども、もともとは、その上段に取り組みの目標というのがあるって、市民に周知を徹底するというところが目標であって、ガイドブックの発行というのはその手段になるので、とりあえずの実績は、その手段の数を記載させていただいて、成果とか課題のところ、そこに向けたことがどうだったかという評価になっていきます。

そこがちょっとわかりづらいということであれば、取り組み内容のところをもうちょっとそこに結びつけるような書き方にするなど何か工夫をしたいと思います。

○委員長

そこは非常に難しいところですよ。どれだけ市民の方が、いわゆる白井の福祉、地域福祉に対して理解してもらっているかということの評価するわけだから。ガイドブックを発行して、どの程度読んでもらっていて、実際にそれがどういうふうに周知の徹底となっているかということに関して、何で評価するかということなのだね。そうすると、一番右のところ、取り組みによる成果が、何によって示していくことになってくる。非常にそこは難しい。どういうふうに考えますか。

○事務局

周知ができているかどうか、市民の方が理解できているかどうかというのは、これは確認できない項目だと思っています。ただ、その配布方法とか、配布先、どういう形でやっていくかということを経年工夫していくということで、成果としてそこは見ていくしかないかなと思っています。市民の方にどの程度周知できたかというのは、やはり難しいと思われます。

○委員

場合によっては、その市民アンケートをネットでやるとかということも一つ、考えてみたらどうですかね。例えばここだけですと、どれぐらい読んだかというようなこと。そういうふうな質問項目を立ててみて、ネットでやるのは、別にお金そんなにかからないわけだから、市民の方にインターネットでやってみたらいいかもしれませんね。そうすると、全く読んでいないとか、配ったけれども読んでいないとかという話になっていって、今度はどういうふうに読んでいただくかと、目を通していただくかということが課題になってくるかなというふうに思うのですね。

○事務局

配信メールとかのサービスをしているので、そこで保健福祉ガイドブックを知っていますかという確認をするだけでも、認知されているかというのは確認できると思いますので、そこはちょっと考えてみます。

○委員長

この地域福祉の施策に関する項目のアンケートをやってみるのも一つの方法ですね。ほかに、ご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、何でも、どうぞ。

○委員

取り組みによる成果とか課題とかというのは、最終年度の32年度のときには、ある程度書かれるかもしれないけれども、年度ごとに書けといたって、せめて発行部数を分母と分子に分けて書くようなものだったら、余り意味がないと思うのですよね。だから、部数なんか問題じゃなくて、内容がどういうふうに周知徹底されたかというのが知りたいです。そうすると、ここで言う取り組み成果なんていうのは、毎年書けるものでしょうか。ここは多分担当者が、30年、31年、32年やってみて、こういう例があって市民に対して啓蒙できたとか、できなかったとか、そういう評定くらいにしかないのではないですか。単にその発行部数知ったってしょうがないのですよね。だから、このところは、周知が徹底されたかとかそういう捉え方をしたほうがいいと思うのですけれども。とにかく

3年間我慢して見ているから、どれだけやったか教えてくださいということになるのではないのでしょうか。

ただ、こうして毎年やっていることはどうなるになるのだけれども、3年間やれば大体このぐらい周知するものと思われませんか、そんな評価になるのではないのでしょうか。分母のないものをどうやって書くのですかね。評価するのに分母がないのでしょうか。発行部数とかは分母があるから発行部数書けるけれども、分母がないのをどうやって評価するのですか。

○事務局

この計画の中で、ガイドブックでいえば目標発行部数というのがあります。

○委員

発行部数知ったところでしょうがないのだよね。成果として、発行部数が成果では困るのですよ。うまい評価の仕方ってないですか。非常に難しいと思うのですが、何かもう一つ工夫がないでしょうかね。

私、例えば、見守り事業なんていうところの委員になっているのですけれども、委員になって1年になるけれども、何も話もないですし。それを、例えば見守り事業はどういうふうに成果が上がっていますかと聞かれても、答えられないのではないのでしょうかね。担当者が毎年書けますか。

○事務局

最終的には、その3年でどうなったかというのがありますが、1年ごとの課題とかは出てきていると思います。そこを自己評価して課題を見つけて、その課題に対してこの会議で意見をいただくことによって、それがまた次年度につながっていくというサイクルをつくっていくために、毎年、自己評価と外部評価ということで、進めていきたいと考えているのですが。

○委員

例えば、ガイドブックはもう既に発行されていますよね。それに対して、まず1年間で不都合なところはわかりやすく改善しました。そういう評価はできても、もし3年経ったらこういうことまでできますとか、こういうふうにして周知できますというのがあって、その結果として、取り組みとして大体半分ぐらいできたのかなというような評価くらいしか書けないと思うのですけれども。

それともう一つ。パソコンでと言っているのですけれども、高齢者がインターネットでやれますか。私だったらあんなもの開くくらいだったら、やめようとなっちゃいます。

○委員

高齢者には難しい。

○委員

そうだよね。あんなもの面倒でできない。面倒だと思うのですね。

○委員長

ただ、郵送とかになると、ものすごくお金もかかるし、大変ですね。今、eモニターとかというものを市役所のいろいろなところで入れていますよね。白井市は入れていないですか。

○事務局

入れています。

○委員長

入れていますでしょう。そしたらモニターがいるわけだから、それに対して答えてもらうのも一つですね。

○委員

それだったらいいのではないのでしょうか。高齢者にアンケートと言ったって、パソコンは開かないよ。そうでしょう。

○委員長

他に何かご意見ありますか。

○委員

自分は行政側の立場での評価と思ったのですが、今、皆さんの意見ですと、サービス受ける側の人の立場の評価でやってくださいというご意見なのですから。それで、事務局のほうで、あまりそういう評価の仕方ってやられたことはないと思うのですね。結局、膨大なお金がかかり、予算繰りもあるので。学校なんかは簡単に、外部の意見として保護者の評価がとれるのでいいのですけれども。ただ、行政になると、それがなかなかとれない部分があるので、その辺を今どうするか、きっと苦慮していると思うのですね。行政側として、例えば何部発行したからそれでよしとするというようなものでもないし、例えば相談件数なんかは、多ければいいという問題ではないし、少なければいいという問題でもない。そういう部分で、非常に評価の仕方が難しいし、その辺は、今の皆さんの方向性が、

受け手の立場で評価するというふうに出ていたものですから、何かそればかりで果たして本当にできるかどうか。我々が意見言っても、ちょっと難しいかもしれないとか、どこかで3年間の内は、例えば最後の年は、そこで予算繰りしてやってみるとか、正直に答えてくれないと。

先ほど3年間のまとめとして、次の中間見直しが32年と計画であるのですが、今さら予算取れないと思うので。その辺は、自分なんかはどっちかという、今言われたモニターさんからとればいいのですけれども。もしモニターからとれなければ例えばこれ見ると、講座を開いて充実させると書いてあるので、講座受講者からアンケートをとれば全然問題ないわけですから、できるもの、できないものがあると思うのです。だから、それはできる範囲でやってもらって、最後は予算繰りをして取れば、別の手法を考えていただいて、32年度のときには、受け手の評価もある程度入ってくるという方向もあるのかなという気がします。

○委員長

いかがですか。

○委員

提案のところで、委員のお話を伺うと、何か少しわかったのですが、ただ、取り組み目標のところを見てみると、相談支援を行うための相談窓口の周知を徹底するというのは、それは行政が目標にしていることだとするならば、誰に対してかがやっぱり大事になってくるから、この目標自体が違っているのかなと。そもそも、根幹から来ている一番上のところを見ると、この「福祉サービスの適切な利用の促進」というふうになっているから、やっぱりこれも市民が利用していただくことを評価していくというふうになってしまっている。しかも、主な取り組みとか取組内容を見ても、すごく細かいのですよ。

複合的な課題を抱える市民が増加する傾向にある中という背景があって、その中で個々に対応していくために、この媒体を作っているように捉えてしまったので、媒体ということが、対象にどの程度理解できたかを周知徹底すると書いてあるものだから、そういう評価が必要だと、行政が求めているのかなというふうに思ったのですね。

今の行政にうといもので、行政として何をするのが、もうちょっとわかるような言い方にしていただくなりするといいのかな。主語がどっちなのだろうと思いました。

また、取り組み項目になると急に、ガイドブックの発行ということになるのですが、そこが私自身、ガイドブックがたくさん配られたことによって周知徹底されたということにつながるのか、研究なり何なりがあった上で、こういうことが言えますというのなら分かりますが、科学的でないし、論理がないと思いました。

○事務局

地域福祉計画を策定する段階で、市民の方たちから意見を聞き、ワークショップをしながら、課題が出てきて、でき上がったのがこの計画になるので、その意見を踏まえてこれらの項目が施策として出てきて、それを取り組む内容が今出ているガイドブックの発行であったりするという事を考えると、やはり市民の実態というか、そういったことを踏まえて、ガイドブックが何部発行できたというところを今の段階では、一応、評価という形でさせていただくしかないのかなというふうには思います。

見直しや計画の切りかえの段階で、課題を改善できているのか、できなかったら、次、どうしていくかということを繰り返しさせていただきたいなというふうに思っております。

○委員

行政評価ですから、予算があって、物があって、物を売った、そしたらこれだけ儲かった。だからよくやりましたというのはできないと思うのですよね。行政というのは、あくまでも、ガイドブックを発行しましょう、その数字はこれだけです。それをどれだけはかせました。だから、市としては、これだけやりましたよというのが、多分、市側が答えることだと思うのですよ。でも、果たしてそれでいいのかというのが、今度は一般市民というか、我々が判断する立場だと思うので、あくまでも、行政を評価するというのは、物の数字とか何かは出ないので、非常に難しいと思うし、ある意味では、揚げ足とりではないのですけれども、ここにこう書いてあるけれども違う、やっていることが全然違うじゃないかというのが、評価になっていくと思うのですけれども。そこら辺も評価の仕方だと思うし、やり方だと思うのですけれども、毎年2,300部発行する。毎年発行する必要があるのかというのも一つでありますよね。実は私も身体障害者ですので、保健福祉ガイドブックをもらっているのですけれども、2,300部あるけど配ってくれないのです。だから、窓口に行くことがありますから、そこで貰っています。こういうのがありますよという小さいパンフレットを配布したり、インターネットとか市の広報なんかでガイドブックができましたと掲載したりして周知する。そういう周知した結果、2,300部が、30年度は無くなったのでまた作りましたと。だけれども、まだ残っているから、32年度はいらないと。そういう意味で、節約ができましたと。そういう評価はできるのですけれども。

それと同じように、防災マップも白井市にありますけれども、これは各戸に配るはずなのです。でも申しわけないけれども、皆さん、置いてあるだけでご覧になった方はほとんどいないと思うのですよね。だから、この保健福祉ガイドブックも、私も何で見ているかという、実は、身体障害者で65歳以上になると、後期高齢者になれると知らなかった。それは誰かに聞いたから知ったのですけれども、実は書いてあったのです。自分が当事者であってもなかなか見ないというのがありますので、そういったものをもっと周知して、

皆さんがよく見てくれたというのがある意味の評価になっていくと思うので、行政評価というのは、さっきの何パーセント以上がよくできましたということではないですけども、本当に難しいと思っています。自分たちがどうやって評価するのかというのを、一面では聞いてみたいし、それをもとにして我々は評価するのでしょうかから、大変だと思います。

○委員長

ほかに、もしご意見あればお願いしたいと思いますが。事務局のほうはどうか、今の意見を受けて。

○事務局

委員が発言していただいたとおり、その成果のところをあらわすというのは難しいと思うので、こういった数字をわかりやすい回数であったり、発行部数であったりというところを指標に設定いただいているのが実際のところなんです。その指標は達成できたけれども、ちょっと課題というのが出てくると思います。その部数が課題ではなく、それがどうだったかという課題を担当課のほうで、これ以外に書き出させていただいて、そこに委員の皆さんからご意見いただくとか、助言いただくとか、そういう形でサイクルを回させていただければというふうに考えています。

○委員

今、意見もらいましたから、もう少しわかりやすく、評価しやすいようにもう一回文章もちょっと変えてみるといいと思います。取り組み内容のところも何が主体なのか、何が主語なのか。どうすれば周知徹底できるのか。そういうことも含めて文章をちょっと変えてみてはどうでしょうか。その上で、先ほど非常に難しいと意見もありましたが、評価できるものは年度ごとに評価していくと。

あとはシートが一番右側の課題ですよ。年度ごとに、こうやってみた結果、そこがちょっと問題になっているという程度でいいと思うのです。それを次の年度に送っていく。またそこから次の年度へと。そして最終年度については、課題はこういうことが出たと。そうすると、今度は地域福祉計画そのものを作り直すのに役立てていくというようなことでいいのではないのでしょうか。どうですかね。

○委員

委員のおっしゃったとおりでいいと思うのです。私も総合計画というのを何回もつくってまいりました。市の総合計画というのは、行政者が何をやるかという目標ですよ。市民をどういう方向に導いていこうかという目標ですよ。そうすると、それに基づいて

これができているわけだから、主語は行政だと思います。だから、行政の皆さんがどこまでできたかなということなのですね。そうすると、じゃあ行政の皆さんがどう思っているかということを書いて、3年間通してみても反省点のところは、周知徹底ができたとか、未完成であるとか、その辺のことを書き入れるようにしておいたほうが、行政にとって素直じゃないですか。

○事務局

はい、わかりました。今、ご意見いただいた形で取り組み内容、具体的な内容のところに、誰に何をということをもうちょっとわかるような形と、あと、行政としてできているかできていないのかという視点を取り入れた形での評価というのをできるようにしたいと思います。

○委員

資料1に、30～32年度は何をやるかということが書いてありますよね。そこに、皆さんがどういう書き方をするかというのを非常に興味がある。だから、また資料1に戻って、例えば、31年度というのは、30年度は何をやって、うまくいったとかうまくいかなかったとか、その辺を書いたらどうか。

同じこと書いてあるだけで何もおもしろみがないのですよね。資料1を見てください。3年も同じこと書いてあるものもあるじゃないですか。どこに進歩があったのですか。そうなるのですよね。

だから、ここを書くときには、やっぱり30年度はこういうふうにしてうまくいったとか、うまくいかなかったとか、31年度は引き続きこれをやりたいとか、そういう表のようになっているほうがいい。どうですかね。

○事務局

地域福祉の主な取り組みについては前回の会議でお諮りして一度でき上がっているもので、計画書上は、一旦これでやらせていただきたいと思います。評価を踏まえて、当初はこの数字だけでも、どうなったかというのをこの進行管理のほうで増やしていく、減らしていくというのはあると思うのですが。

○委員

じゃあ、そのようにしてください。そして、今年書くときには、30年度できたこと、できなかったことを資料2の成果や今後の課題・方針のところにちゃんと列記してほしいと思うのですよね。今後はこれでやりたいというようなことも書いていただくと。

○事務局

考えさせていただきたいと思います。

○委員長

それが評価シートなわけでしょう。

○委員

そうですね。それで評価がわかれば。だから、何も数字に対して何パーセントなんて、出来高でやることなく、担当者が大体半分ぐらいでよしとか、半分ぐらいできたかなとか、そういう感覚でもいいと思うのですけれども。

○委員長

他に何かありますか。はい、どうぞ。

○委員

これは、第1次の目標指標とシートを変えたというのに何か理由があるのですか。白井市の第1次地域福祉計画の状況って、この第2次地域福祉計画の取り組みにかかる進行管理とは別物で、基本目標の備える、行動する、つなぐに対して個別の目標があり、指標があったと思うのですけれども。第2次は新たに作り上げたものですか。

第1次は何か目標があって、それに対して備えて、こんな行動してつなぐと、つまり、市民の方向に近づいていくものの数値化が指標とされていっていたのですよね。なので、何か違うなと思っちゃったのはここなのだけれども。何がどの辺までできて、何が課題なのかというのが見えやすかった。見えやすかったというか、これもどうだったのだろうというのはちょっとありましたけれども。

第1次のときには、例えば、地域見守りネットワークのところで孤独死というような話があって、基本方針に「行動する～地域の力で元気に支え合うまちづくり～」とあるので、それにのっとって行動できない理由は何ですかといったときに、そこには職員の人員不足で行政と地域の間につなぐ人間、つまり地域担当者というのがいないという話があったかと思います。そういうふうに、職員の人員数が不足しているというようなことから、何が課題なのかが見えないと難しいのではないかと思います。

目標がパンフレットを配るということになってしまって、それが順調に進んだのか、概ね進んだのかになってしまうと、どういうことなのかなと思って。

前のがすごくよかったわけではないので、変えてくれたのはいいのですが、前のほうは、強制的というのか、何回やったとか、何をしたとかというのがまとめられていたのですね。行政が取り組んだ4年間というのが見えてくるのかなと思ったりするのですよね。

○事務局

第1次の状況は、皆さんのお手元にある資料1の2ページにあるのですけれども。最終的にはこういう形でできればと思います。

○委員長

どうですか、意見は。

はい、どうぞ。

○委員

資料2の2ページの最後のほうに、地域計画の委員からの意見ってありますよね。これは毎年書くものじゃなくて、32年に書くのでしょうかね。どういうふうなイメージしているのですか。

○事務局

事務局としては、毎年ご意見をいただきまして、ここでいただいた意見を翌年度に反映していくという考えです。

○委員

中途半端じゃ評価できないですよ。

○委員長

わかりやすくいうと、例えば、ガイドブックの場合、2,300部配って見たと。そうすると、30年度は配って見たけれども、あまり取りに来る人も少ないし、効果がないよさだというのが、その30年度の課題として出てくるわけですよ。そうすると、31年度は、例えば2,300部じゃなくて1,500部でもいいのではないかと。そのかわりにインターネットで周知徹底させるとかいうような形で、変化が起こっていくものです。そういう形で毎年度、そのものを評価していこうと、そういうことなのでしょう。

○事務局

はい。

○委員長

それは、このシートに基づいて、事務局だけがやるのではなくて、各課が評価していくわけでしょう。

○事務局

そうですね。こちらの各担当課のほうで。

○委員長

その評価に基づいて、担当課や事務局のほうでチェックをして、そして課題が出てくるでしょう。それをこの委員会にかけて、これはどうですかという感じになるわけでしょう。そして、次年度につなげていくと。

○事務局

その際に、委員の皆様へ評価、ご意見いただく中で、さっき冒頭に説明しましたがけれども、これだけじゃわからないというような事業がありましたら、何個かピックアップしていただいて、前々からご意見いただいていた形になりますので、担当課のほうを同席させて、説明させていただければと思います。全部はちょっと時間的にも厳しいので、資料を事前にお配りしますので、その中からご意見いただいて、数の多かった、希望が多かった事業ということで、二つないし三つぐらいに選定させていただいて、評価をいただければと思います。

○委員長

今日は、進行管理シートがこれでいいかどうかということですので、若干の修正がありましたけれども、おおむねこれで進んでいくと。事務局のほうはちょっと大変でしょうけれども、各課がこれに基づいて評価していく。あくまでも、先ほど委員さんがおっしゃいましたけれども、主語は行政なのだと。

○委員

間違っていないよね、主語は行政でしょう。

○事務局

はい。市側です。

○委員長

行政が何をやったかというのをみんなが評価するということなのです。

○委員

1年間の勤務表ですね。

○委員長

このやり方でいいかどうかということ第三者の視点で評価をするということです。

○事務局

市だけではなく、社会福祉協議会も含まれます。

○委員長

もちろん、そうです。

○委員

委員がおっしゃったように、毎年同じことを書いてあるのですけれども、30年度にこれやったから、31年度はこれをやらないというふうに捉えられるといけないから、毎年同じことを書いてあるのだと思います。だから、毎年毎年こういうことをやりますよ、けれども、これだけじゃ足りないからもっとやるということとはできるはず。

○委員

これ、逆に言うと予算も絡んでいますからね。予算が増えれば、新しいことをどんどんできますよ、人もいればという話だと思うのですけれども。今の人数、今の予算だったらこれぐらいしかできないというのが毎年書いてあるのではないですか。

○委員長

やってみて、それがどういう効果を生んでいるのか。課題があるならそれを何とかしていくと。

○委員

費用対効果で、ダメだったらやめろということになるのですけれども。

○委員

今の話ですけれども、行政だったら予算がないからできないということは言えないのですよね。

○委員

ないからというのではなくて、もっと予算があれば他のこともできますよということ言うかもしれないじゃないですか。

○委員長

もうちょっとあればということが言えるわけでしょう。もう少し予算があればもっとたくさんできるというふうに。その辺は書き方もありますので、うまくまとめていただきたいと思いますが。

○委員

ちょっともう一つ。

○委員長

はい、どうぞ。

○委員

数量化するといいますと、何部発行するとかそういうのは、ある意味、定量的なものがありますよね。数量で評価できないもの。そういうものはどういうふうにやるのでしょうか。

○事務局

一応、全ての項目において数量で示されるような指標を出させていただいてはあります。その数字が指標でいいのかというものが事業によってはというのは出てくると思いますけれども。

○事務局

一つだけございました。No.27 に関しては、担当課から指標が設定できないということで意見をいただいております。指標を設定できない部分があるのですけれども、ここに関しましては、最後の成果でしたり、今後の課題方針に記入していただくという形で対応をさせていただければと思いますが。

○委員

まちづくりなんて、こんなのどうやって書くの。

○事務局

そちらについては、次回に担当課に説明していただこうと思っています。

総合計画の中で、まちづくりについては進めておりますので、福祉分野の視点ということで、ここに記載させてもらっています。

○委員長

いずれにせよ、各課が評価するものですから、それを事務局のほうでまとめるということになります。やってみましょうということです。

○事務局

はい。

○委員長

ほかにご意見があればお願いしたいと思いますが。よろしいでしょうか。

事務局の方はこれでよろしいですか。今、意見をいただいたことを参考にして、もう1回整理してみると。シートももう一回整理してみて、評価しやすいシートにまとめ上げていくということなのですから、よろしいでしょうか。

それをもとに、我々が意見を述べ合うということになろうかと思えます。できれば、早い段階で委員の皆様方に読んでいただかないと、なかなか、その場で評価しろといったってできないわけですから。その点を含めて、早い段階で資料を配って、そして委員会を開くということにしたいと思えます。よろしくをお願いします。

○委員

この資料を読むだけでも2日ぐらいかかりました。

○委員長

そうですね。事務局のほうは、よろしいですか。

○事務局

はい。

○委員

この評価はいつごろ。

○委員長

いつごろになりますか。

○事務局

年度が変わりましたら、すぐに各課のほうへ照会かけ、評価を取りまとめいたします。取りまとめたものを事前に委員の皆さんに送らせていただいて、少し時間かけてご確認

をお願いさせていただきます。そこで、特に確認したい取組や直接聞きたい事項等を吸い上げ、取りまとめたうえで、各課への招集をかけるという形にいたしますので、6月ごろ開催させていただければと思います。

○委員長

一応目安としては6月ごろということによろしいですか。

○事務局

お時間は長めに設定させていただくことになりますけれども、お願いします。

○委員長

それでは、評価表と進行管理シートを作り上げていただきたいと思います。

Ⅲその他

○委員長

続きまして、Ⅲのその他でよろしいですか。

○事務局

Ⅲのその他で今後のスケジュールを説明させていただこうと思ったのですが、先程の説明のとおりでございます。

各課の評価を取りまとめまして、各委員の皆さんにお送りさせていただきますので、次回は6月頃の開催ということでお願いいたします。

また、本日の会議録ができ上がりましたら送付させていただきますので、ご確認のほうお願いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長

よろしく申し上げます。何かご意見がありましたら、この際、もうちょっと時間がありますけれども。よろしいですか。

議事録も事務局のほうで整理してくれますので、確認していただきたいと思います。

Ⅳ閉会

○委員長

それでは、何もなければこれで終わります。どうもありがとうございました。